

中野区教育委員会会議録 平成21年第3回臨時会

○開会日 平成21年7月31日（金曜日）

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午後 1時00分

○閉 会 午後 3時04分

○出席委員（5名）

中野区教育委員会委員長	大 島 やよい
中野区教育委員会委員長職務代理	飛鳥馬 健 次
中野区教育委員会委員	山 田 正 興
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会教育長	菅 野 泰 一

○欠席委員（0名）

○出席した事務局職員（6名）

教育委員会事務局次長	田 辺 裕 子
参事（教育経営担当）	合 川 昭
副参事（学校再編担当）	吉 村 恒 治
副参事（学校教育担当）	寺 嶋 誠一郎（欠席）
指導室長	喜 名 朝 博
副参事（生涯学習担当）	飯 塚 太 郎
中央図書館長（統括）	小谷松 弘 市

○担当書記

教育経営分野	落 合 麻理子
教育経営分野	上 田 仁

○会議録署名委員

委員長
教育長

大 島 やよい
菅 野 泰 一

○傍聴者 0名

[協議事項]

(1) 教科書採択について

午後 1時00分開会

大島委員長

ただいまから教育委員会第3回臨時会を開会します。

本日の会議録署名委員は、教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

本日、事務局職員は協議事項の教科書採択に関する職員として、次長、教育経営担当、指導室長に出席をお願いしておりますので、ご了承ください。

また、教科書採択にかかわる職員として、統括指導主事に出席を求めていますので、ご了承ください。

ここで委員会運営について確認します。教科書採択に関する教育委員会の審議過程につきましては、中野区立学校教科用図書採択に関する規則第10条の規定に基づき、採択が行われるまでの間は非公開とすることと定められています。7月24日の定例会で確認しましたとおり、本日の臨時会も非公開とさせていただきます。

(平成21年第27回定例会において公開の議決がされたため、以下の非公開部分を公開)

<協議事項>

大島委員長

それでは、前回に引き続き、協議を進めたいと思います。

では、まず理科の第2分野について、協議を進めます。

初めに、各委員それぞれからご意見を伺いたいと思います。

では、山田委員からお願いいたします。

山田委員

理科の第2分野、生物並びに地学で、生物や生物現象についての観察・実験、それから地学的な事項での観察・実験ということで、やっぱり観察の項目が一つのポイントではないかなというふうに思います。

そういった視点から教科書を眺めていきますと、東京書籍、どの教科書もかなり書いてあるんですけども、顕微鏡の使い方などが見開きで載っていました。また、科学の扉という項目がありまして、子どもたちに興味がわくような中生代に生きていた恐竜とか、あと、ちょっとおもしろいのは日本列島の成り立ちなどを載せているところがあります。

また、生命誕生のところでは、受精のところをきれいに図で示していましたし、106ページなどはヒトの消化の仕組みがわかりやすく、また巻末の人体を見るなどのところの表現が非常にきれいにレイアウトされているのが印象深かったです。

啓林館ですけれども、やはりこれは第1分野と同じように教科書が比較的判が大きいというので、これは使い勝手はどうなのかなというところがありますが、やはり力だめしというコーナーがあって、これが基礎基本の定着には役立っているコーナーではないかなと思ひまして、興味深い内容を取り上げているように思います。

学校図書、ここでも科学の窓というのがありまして、日常生活との関連だとか、特に環境問題などを取り上げていて、教科書の中では話し合ってみよう、考えてみようというコーナーがあって、科学的な見方ですとか思考の流れがわかりやすく解説されているように思いました。

教育出版ですけれども、この教科書では家族や友だちとチャレンジというところですか、ハローサイエンスというところで、例えば宇宙誕生とビッグバンなどを挙げていて、そういったところは興味深く、取り上げているなという印象を持ちます。

今、中野区では大日本図書を使っているわけなんですけれども、この教科書も観察という視点からいきますと、ほかの教科書もあったんですけども、観察の視点での指導はよくまとめられていて、ルーペだとか双眼実体顕微鏡の使い方とか顕微鏡の使い方とか、観察に使う器具などについて詳しく説明がされていて、また、例えば生物学のほうですと、プレパラートの作り方とかスケッチの仕方など、レポート作成にポイントが置かれたような指導がなされています。

あと、資料が豊富で、例えば草食動物はなぜ植物だけを食べて生きていけるのかとか、草食動物と肉食動物の目の位置とその視野とか、おもしろい視点で書かれていて、興味をそそる内容が書かれていました。

また、巻末には発表するという、いろいろなものを観察して、まとめ上げて、友達の前で、生徒の前で一緒に話すというような発表するというようなところにも視点が置かれていますので、観察、それから子どもたちの発表だとかいうところの視点からいきますと、現在の大日本図書はすぐれている教科書じゃないかなと思います。

以上です。

大島委員長

ありがとうございました。では、続きまして高木委員、お願いします。

高木委員

第2分野ということなんですが、私が見ていて東京書籍さん、特に下のほうが非常に写真やイラストがきれいにしているなど。特に天体のところは非常にわかりやすく、また個々の惑星の写真もくっきりと載っているの、なかなかいいかなという気がしました。

ただ、若干、私の子どもの宿題でもあったんですが、東京だと星が見えないんですね。やっぱり星の動きを観察するという一番簡単な宿題が子どもに出たんですけども、うちのところからはまず、空が明るくて見えない。あと、見える空も限られちゃうので、余り細か過ぎても、天体のところは同じような再現ができないので、それを考えると、大日本図書さんぐらいの扱いのほうが、逆に東京の中野に住んでいる子には実感があるのかなという気がします。

また、第1分野は大日本図書を使っていますので、連携ということでも、現行の大日本図書がいいのではないかなと私は思います。

以上でございます。

大島委員長

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

理科は、特に第2分野、楽しい内容が多くて、見ていても私も飽きないぐらいの内容がたくさんあるんですけども、そういう意味でもいろいろな教科書、どこの会社も工夫していると思うんですけども、今、大日本図書を使っていますが、その次で、東書も結構いいかなと思うんですね。天気のところの書き方ですね、前線とか。そんなこととか。そ

れからあと、日常生活のそういう、これもほかの教科と同じですが、関連づけている項目が結構多いような気がしますね。

それから、教出は、私はこれ調べていないんですけども、資料によると、総ページ数が300で一番多いとか、ほかは280ページだとか、それから観察・実験・実習が30項目ぐらい、それからエネルギー資源のページ数も最も多いなんていうことで、教出は量的に多いのかなと思います。

ただ、内容的に見てみると、今使っている大日本は、特に私は第2分野の下巻のほうをよく見てみたんですけども、下巻のほうだと、一つは、私は好きなんですけれども、地球の大陸のできた大陸移動説というのがあって、その大陸移動説の書き方が、子どもが興味を持つのかなと思ったり、それからあと、さっき山田委員も言っていましたけれども、受精卵の受精の瞬間の写真というのは、ほかの教科書も結構このところをよく扱っていて、よく出ているんですけども、これは大日本図書も30ページのところとか50ページのところにも写真資料が載っていて、かなり印象的な写真とか説明かなというふうに思いました。

それから、何よりもやっぱり見ていて楽しいということで、草花みたいなものとか野草みたいな、いろいろな動植物の写真が豊富できれいですよね。だから見ていて楽しいと。

あと、観察レポートを書くというのも、これもどの教科書にもありますが、これもかなり丁寧に、第1分野もそうでしたけれども、書き方等が載っていて、子どもには参考になるのかなと思いました。ということで、大日本図書はいいと思います。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

第2分野ですけども、植物とか動物とか、自然環境とか地球とか宇宙とか、そういったものに触れて、自然環境を守っていこうという、そんな態度を養うというためにも非常に大切な分野なのではないかと思います。そのためにも、興味を引くような内容、写真とか絵とかもある程度充実しているほうがいいとは思っています。特に、気象とか宇宙なんかは鮮やかな写真、こういうものも必要になると思います。

それから、地球環境を守っていくという、自然と人間のつながりを通して地球環境ができていて、それを守っていくというような意識を持たせるような、そんな構成が必要だと思います。

そういう面では、現行の大日本図書ですけれども、見やすさとか写真や絵のきれいさとか、適切な記述など、また地学や気象のところなど、この辺の説明あるいは図などが大変丁寧でわかりやすいと思います。また、地球環境の保全につきましても十分書かれている。そんなことから一番よいように感じました。

先ほどお話があります東京書籍は写真や絵が豊富で、しかも大変きれいです。東京都の調査でも、写真や図の数を足しますと、東京書籍が一番多いというような結果になっております。そういう面ではすぐれている教科書だとは思いますが。

教育出版につきましては、絵は多い構成ですけれども、写真あるいは記述がもう少し豊富なほうがいいのではないかと思えます。

それから啓林館ですけれども、判が大きいというのが、ちょっとやはりほかと比べて特徴があって使いにくいのではないかというふうに感じております。

学校図書は、絵が中心であって写真が少ないという感じ。全体にインパクトが弱い感じがいたしました。

総合的に見て、大日本図書の教科書がいいと思えます。

大島委員長

では、最後私ですけれども、私も各教科書を見比べて、どれが悪いということはないと思えました。それぞれの教科書で工夫しているところがあるというふうには思えます。

例えば、教育出版ですと、ハローサイエンスというコラムとか、チャレンジというコラムを設けて興味を引くような工夫をしているとか、啓林館ですと、巻末に君も科学者というようなコーナーを設けているとか、それぞれに工夫はされているというところはわかりますが、啓林館については、やっぱり今お話に出たように、教科書の判のサイズが大きいというのがちょっと使いづらいかないところと、それから学校図書につきましては、例えば大地の変動とか地殻変動、火山や地球のでき方というようなことについての項目について、ちょっと見比べてみますと、大日本図書とか啓林館なんかはかなり詳しく書いてあるのに対して、学校図書はちょっと説明が物足りないかなというようなことで、全体に学校図書のものはちょっと説明が物足りないような印象が、全体にありました。

大日本図書のものは、今の大地の地殻変動等に関するところにおいても詳しいし、非常にわかりやすく書いてあるという点もありますし、それから生徒が調べる、身近なところから調べるというスタンスで全体の教科書を書いているというところが大変いいのではないかと。

それから、大日本図書では目次が、さっきの第1分野のときにも目次のことをちょっと言ったんですけれども、2ページで大変大きくて見やすいというのが、目次が大変いいのではないかということで、全体に、お話に出ましたように写真なども豊富ですし、資料的なものもたくさん載ってまして、大変視覚的にもインパクトがあつていいのではないかと思います。

それと、第1分野とやはり同じ会社の同じ教科書がいいのではないかというようなこともありまして、大日本図書がいいのではないかと私も思っております。

ということですが、ほかに発言はよろしいでしょうか。

飛鳥馬委員

先ほどから出ております理科のところの啓林館ですけれども、少しサイズが大きいですけれども、学校の現場ではどのような意見があるか教えていただけますか。

指導室長

賛否両論といたしますか、2センチなんですけれども、横幅が多くなったことで、そこに情報量が入っているかという、さほどでもないような気がします。意図としてはそれだけ情報量を多くしましたよ、余白を多くしましたよというところだと思うんですが、子どもたちの立場から言えば、サイズがそろっているほうがいいというのはあると思います。

飛鳥馬委員

ありがとうございました。

大島委員長

ほかにはよろしいでしょうか。

では、委員の皆さんの意見を何うとともに、教科書採択基準からしますと大日本図書の教科書が最適であると思いますので、理科第2分野につきましては、大日本図書の教科書を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、理科第2分野は大日本図書を採択候補とすることにいたします。

では次、音楽・一般の協議を始めます。

初めに、各委員それぞれからご意見を伺いたいと思いますが、高木委員からお願いいたします。

高木委員

音楽は私は苦手な教科でして、ただ、昔の音楽の教科書に比べると、割と読みやすくなったといえますか、いろいろなトピックスなんかも書かれていて、非常に生徒たちがとりつきやすいように工夫されているなという気がします。

曲に関しても、そんなに大きな違いはないのかなと思うんですが、教育出版さんのほうが、やや日本の歌が、民謡とかが多くて、ぐらいいですかね。それぞれともバランスはいいと思います。

より取っつきやすさでいいますと、現行の教育芸術社のほうが、私のような音楽が苦手な人からいうと、幅広く生徒たちが興味を持って取り組めるのかなという気がしますので、現行の教育芸術社でよろしいのではないかと思います。

以上でございます。

大島委員長

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

私も音楽は詳しくありませんが、二つ教科書を比べて、今使っている教芸のほうのが、素人が見てもというか、子どもが見てもわかりやすいというか使いやすいのかなという気がするんですけども。いいところをちょっと見てみると、例えば、表紙をあけてすぐ出てくるのが合唱コンクールみたいな、合唱を歌っているところの写真ですよ。中学生の、日本の中学校の合唱コンクール、合唱コンクールというのは文化だと言った方がいますけれども、どこの学校でも盛んにやっているし、子どもは大好きなわけですね。ぱっと見て、合唱のこういう写真が出てくるというのは、非常に子どもは関心があるんじゃないかなという気がするんですけどもね、どうでしょうかね。

それから、あと6ページ、7ページのところだと、歌声セミナーというんで、姿勢のことがイラスト入りで細かく書いてありますね。左、姿勢、右、呼吸ですよ。それから、その次に、また同じようなので14ページに響きづくりという、響きという、これがやっぱりイラスト入りで非常にわかりやすい表現だと思うんですよ。

教育出版のほうを見ると、26ページにあるんですけども、体の、のどから肺までの絵がかいてあって、発声、呼吸が大切というけれども、なかなかこれだとわかりにくい。一目で見にくいと思うんですね。教芸のほうのが説明もよくできているし、姿勢から言ったほうが、こういう細かい絵の説明よりわかるんじゃないかという気がしますね。

それからあと、8ページ、9ページのところもビンゴゲーム的な、リズムゲームとかい

う、ゲーム的なものも入れてあるということで、これも工夫されているなどと思います。

それから、作曲家とか作詞家の一言というので、例えば「夏の思い出」の中田喜直とか「赤とんぼ」の山田耕筰とか、一言が文章で書いてあることもいいなと思いました。

それからあとは、50、51ページあたりの郷土芸能というページがありまして、これも特徴的だなと思いました。

ということで、一般のほうは、一般の教科書としては教育芸術社のほう、今のほうが私はずっといいなと思っています。

以上です。

大島委員長

では、山田委員、お願いいたします。

山田委員

音楽の一般、教育芸術社と教育出版、2者から出ているわけですがけれども、中野は合唱コンクールがありましたし、オーケストラの鑑賞会もあつたりするということもあって、私たちが学んできた教科書と比べると、かなり質が高くなっていることが驚いたことと、ただ、子どもたちにとっては最近の新しい曲が入っているほうがなじみがいいのかなということから考えると、教育芸術社のほうが新しい歌を多く取り上げている。

あと、構成でかなり違うのは、教育出版に比べて鑑賞教材がかなり多く取り入れられているということもあります。

曲目については、教育出版のほうが多く取り上げているんですけども、鑑賞ということに芸術のほうは力を入れているような気がします。

教科書をあけて、いろいろ見ますと、例えば最近の「キャッツ」みたいなミュージカルを取り上げたり、オペラを取り上げたりしているようなところもありますので、子どもたちにとっては、使いやすい教科書としては教育芸術社なのかなという気がいたします。

一方では、教育出版は、楽曲の量も多いということと、作品としては芸術的なものが多いのかなと。日本の民謡なんかをうまく取り入れているのは、教育出版がうまく取り入れているかなと思いますけれども、一方で教育芸術社も郷土芸能の項があつたりすることで、生徒が共感し、学びやすいという視点からは、教育芸術社のほうが分があるかなというふうに思いました。

以上です。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

2者しかないわけですから、どちらかというふうになるわけですが、選曲についてはそれぞれ、多少は違いますが、親しまれている曲とか名曲とか、そんなに遜色はないんじゃないかと思います。

音楽の教科書ですが、実際使うときは開いて、こうやって置いて、それを見ながら歌ったり演奏したりするわけですが、そういう面で行きますと、まず見やすさでいいますと、色とかそういうのを見ても、やっぱり教育芸術社のほうが何か見やすい感じがいたします。譜面が。

それからもう一つ、教育出版のほうですが、いろいろ折り込みのページがあったりして、開いたときに非常におさまりが悪いところがございまして、こちらのほうはすべてきちっとおさまる、開いたときにおさまるといような感じがいたします。そういう面で、やはり使いやすいという面では教育芸術社のほうがよろしいと思いますので、全体として教育芸術社の教科書がいいのではないかと思います。

大島委員長

では、最後に私です。

音楽は一般と器楽合奏と、この2種類あって、それぞれに教科書があって、それぞれ選ぶということと、今話題にしている一般のほうは、器楽もそうですけれども、教育芸術社と教育出版という2者から出ているという、二つから選ぶということ。

それで、私も見比べると、教育芸術社と教育出版社でした。教育芸術社のもののほうが適しているのではないかと思いますけれども、まず全体的な感想としては、「太陽がくれた季節」とか「若者たち」とかいうような、私たちが若いころにヒット曲であったというのが、ヒット曲として歌ったり聞いていたものが教科書に載る曲になったという時代の流れといいますか、非常に感慨深いものがあります。それだけ名曲として認められたということだと思いますけれども。

まず見た感じが、教育芸術社のほうが楽しそうであると。色使いとか、見ていて、まず楽しいという感じがするというのと、それから何といても、飛鳥馬委員のお話にもありましたように発声についての解説が、歌声セミナーということで出ているというのが大変にいいと、私もここは非常に買いました。やっぱり歌を歌うときは、発声の仕方、腹式呼吸とか、それが一番大事でございまして、私はもちろん素人ですが、素人なりに

非常に音楽が好きですので、素人でちょっと歌を習ったりしたこともありますので、この辺は関心があるので、大変こういう姿勢などが出ているというのはいいんじゃないかという点ですね。

あとそれから、教育芸術社のほうは、いろいろな題材をバランスよく取り上げているとか、和太鼓のような日本のものとか、郷土の音楽なんていうのも取り上げているし、またもちろんヨーロッパの音楽のものもたくさん取り上げているし、バランスがいいんじゃないかなというふうなことです。

取り上げている曲は、好みもあるからどちらがいいということもないし、別に悪いということはないとは思いましたがけれども、そんなことで、全体的にバランスもいいし親しみも持てるし、発声についての解説がきちんと出ていると。見て楽しい感じがすると、そういうところで、教育芸術社のほうが適しているのではないかと私は思いました。

というところで、ほかに何かご発言はありますでしょうか。

それでは、委員の皆さんの意見を何うとともに、教科書採択基準からしますと教育芸術社の教科書が最適であると思いますので、音楽・一般につきましては、教育芸術社の教科書を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、ご異議ございませんので、音楽・一般については教育芸術社を採択候補とすることにいたします。

では、続きまして、音楽の器楽合奏についての協議を進めます。これも、今、話が出ました教育芸術社と教育出版社、2者から出ております。

では、飛鳥馬委員からお願いします。

飛鳥馬委員

小学校で使っているのはソプラノリコーダーで、中学校はアルトリコーダーというふうに、つながりから考えると、やっぱり教育芸術社のほうがすぐアルトリコーダーのことが、たくさん最初使うようになってくるのでいいのかなと。

後で指導室長にちょっとお聞きしたいのは、アルトリコーダーを最初にやらなきゃいけない、和楽器を最初にやってもいいとか、そういう順番はどうでもいいのかどうか、後で教えてください。

ということはあるのですけれども、とりあえず笛ということで、アルトリコーダーが最

初に出てくるということは、小学校とのつながりでいいのかなというふうに思います。

教芸はかなり詳しくアルトリコーダーのことをずっと何ページも使って書いてあるんですね。

そしてその次に出てくるのがギターなんです。三つ目が和楽器になるんですけども、それを教育出版、教出のほうで見ると、教出のほうは最初に和楽器が出てきて、琴がかなり強烈な、いい写真ですけども、琴とか三味線とか出てくるんですけども、写真がよくてすごくきれいだなと思うんですけども、子どもが実際にやる場合にはなかなか難しいのかなと思い出して、琴も中野の場合には学校を回して使うとかありますので、だから順番はそのとおりにかないのがあるのかもしれないんですけども、いずれにしても和楽器が最初で、その次にリコーダーが出てくるのか。ギターが最後なのかな、というふうなやり方なんですけども、つながりから言って教育芸術社がいいのかなと。和楽器も大事なんだと思いますが、そんなに私たちもなじみがあるわけではないものですからというふうに思います。

教育芸術社がいいと思います。以上です。

大島委員長

では、山田委員、お願いいたします。

山田委員

器楽ですけども、教育基本法が変わって、日本の伝統文化というようなこと取り組み方でいきますと、将来的にはこの和楽器というのが一つのポイントにはなると思います。そういった視点では、教育出版が、最初から和楽器を取り上げているんですけども、それにすごくウエートが多い。そういった意味で、総合的学習との連携ということではいいのかもしれませんが、実際に教育の現場の中で、これだけ和楽器のことが、実際に現場として学んでいけるかと、もう少し先でないといけないのかなというところと、何といても子どもたちの楽器演奏の中で、中学で学ぶとして一番多いのは、先ほど飛鳥馬委員もおっしゃっていたようにリコーダーだと思いますので、やっぱり導入はリコーダーのほうが、子どもたちにとってはわかりやすいし、親しみやすい。リコーダーが入って、ギターがあってということで、身近なものの中での教育の現場ということとなると、現在使っています教育芸術社で特に問題はないんじゃないかと思います。

ただ、学校のほうの意見で、せっかくアルトリコーダーを中心に構成されているのに、もう少しアルトリコーダーを使った曲目が多いほうがいいんじゃないかなんて意見もあり

ますけれども、教育芸術社で問題ないんじゃないかと思います。

大島委員長

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

私も読んでいて、教育出版さんのほうがいきなり和楽器で入ってくるのは、ちょっと違和感とまで言いませんが、やっぱり唐突な感じがしました。やはり小学校でソプラノリコーダーをやった子どもたちにとっては、いきなり琴とかあるいは三味線よりも、順番としてはリコーダーから入っていったほうが取っつきやすいのではないのかなと。

やはり、音楽も嫌いになってしまう教科、だんだん差が出てきますので、小学校のときは低学年とか、みんな声をそろえて歌っていればよかったのが、だんだんいろいろな知識とかも入ってきますので、そこでやはり取っつきやすさですとか、あと、基本的なところ、例えば教育芸術社さんですと、私のように音楽に疎い者に関していうと、楽譜の二分音符、四分音符と、もう一回確認できるようなところも細かくついていてくれると、非常にわかりやすいと思うので、私は現行の教育芸術社のほうがよろしいと思います。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

私もほとんど今まで言われた意見と同意見です。一般のところでもそうでしたけれども、見て、譜面とかがわかりやすい、見やすいというんですか、については、譜面の、例えば紙の色と黒とのコントラストとかそういうことなんですけれども、それでいけば教育芸術社のほうが見やすいと思っておりますので、あるいは先ほどから出ています導入の部分、リコーダーで入るのか、和楽器で入るのかというようなところでも、やはりリコーダーで入っていくほうが入りやすいということもありますので、そういう面で教育芸術社の教科書がよろしいと思います。

大島委員長

では、私の意見ですけれども、もう皆さん、出た意見と同じでございます。

リコーダーはみんな、生徒一本ずつ持っているものですし、学校の音楽でもこれまでもやってきているものですが、教育出版社のほうのお琴とか三味線とかいきなり出てきますけれども、これ、みんな持っているものじゃありませんし、やっぱりまずはみんなが一本ずつ持っているリコーダーからというのが、授業を進める上で順序であろうということで、

教育芸術社のほうが学校の教科書として適していると。

また、そこに出てくる曲も、少ないのではないかというお話もありましたが、それはそれとして、取り上げている曲は「聖者の行進」「オーラリー」「アニー・ローリー」「ラヴァースコンチェルト」、いずれも大変親しみやすい曲で、メロディーもきれいなものでいい曲なのではないかというふうに思いまして、そのようなことで教育芸術社のものが適していると私も思います。

ほかに何か発言はございますでしょうか。

どうぞ、指導室長。

指導室長

先ほどのご質問がございました、アルトリコーダーが先なのか、和楽器が先なのかということについては、特にそういう決まりはございません。

飛鳥馬委員

そうですか。わかりました。

大島委員長

ほかには何かありますでしょうか。

では、委員の皆さんの意見を伺うとともに、教科書採択基準からすると教育芸術社が最適であると思いますので、音楽・器楽合奏につきましては、教育芸術社を採択候補とすることで、異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、異議ございませんので、音楽・器楽合奏は、教育芸術社の教科書を採択候補とすることにいたします。

では次に、美術についての協議をいたしたいと思います。美術につきましては、三つ教科書が出ております。

では、山田委員からお願いいたします。

山田委員

美術でございます。美術は、表現と、それから鑑賞という、二つの大きな分野だと思っておりますけれども、この3者の中で、東京都の資料ですと、開隆堂と日文については表現と鑑賞とバランスよく取り上げておりますが、光村については比較的鑑賞の題材が多くなっております。

ただ、子どもたちが表現をするということで、自分たちの同年代の人たちの作品を取り上げているという視点からいくと、開隆堂が310作品、日文が183作品、光村については27作品ということでかなり差があると思います。そういった意味で、子どもたちの表現というところでは開隆堂とか日文が親しみを持てるような気がします。

そういった意味では、開隆堂は特に生徒作品がうまく配列をされているというように思います。またそういった意味で、子どもたちの興味関心を引き出しやすい。

また、第1学年から第2、第3と上がるに従って、発達段階の配慮がされているのが開隆堂ではないかなと思います。

光村は、この美術の教科書としては、判をそろえるという点ではいいのかもしれませんがけれども、これだけ判が小さいんですね。この教科書は主に鑑賞に力を入れているというようなイメージがあります。ただ、美術史の年表などは非常にきれいに書いている辺が特徴があります。

日文は、日本の美術と世界の年表ということで、主に日本の美術のところの鑑賞と世界の美術の作品の掲載をされていて、比較検討がなされているというのは、非常によくできているのかなと思いますけれども、生徒の表現というところからは開隆堂の、現行の開隆堂で申し分ないのではないかなと思います。

大島委員

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

山田委員もご指摘されましたが、ほかの教科書に関していうとなるべく大きさをそろえたほうがいいと思うんですが、こと美術に関してはやっぱり光村さんの小さいのかなと。例えば「ビーナス誕生」ですとかありますけれども、この大きさに縮めてしまうと、現物と比べるとやっぱり全然イメージが違ってしまいます。現物はもっと暗くて、こんなに見やすくはないんですけれども、違ってしまいますので、やっぱり美術はある程度大きいほうがいいかなと思うと、開隆堂か日本文教出版かなと。

これ、全くやっぱりアプローチが違って、開隆堂のほうは生徒の作品づくりのほうに大分振ってある。もちろん検定済みですから間違っているとかなそういうことではないんですけれども、作品でも、特に実際に子どもたちがつくるようなものにかかなりウエートが置かれているという感じがします。

小学校までの図工って結構みんな好きな科目のうちの一つなんですが、やっぱり中学校

になってくると、だんだん嫌いになるものがふえてしまうところなのですが、私としてはこの開隆堂のように、実際にいろいろなものをつくらせていくような形のほうが、今の中野の教育には合っているなと思いますので、現行の開隆堂出版がよろしいかと思います。

大島委員長

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

私も結論から言えば開隆堂がいいと思うのですが、開隆堂のを見ますと、最初の4ページ、5ページ、6ページの広がるところが、図工から美術へという、小学校の図画工作から、今度、中学校は美術なんだよという、その意識を子どもたちが身につけるといいですか、ちょっと違うんだよということを最初に考えさせるところがいいかなと思いますね。

そうは言っても、その裏側の7、8、9のところへいくと、表現の始まり、スケッチから始めようというところを見ると、これもやっぱり非常に子どもたちが自由にかいていくような表現から入っていますので、子どもが何か安心して何でも自由にかいていいというような、そういうことが伝わってくるのかなと思うんですね。

今、小中学校を学校訪問等を見て、子どもの作品なんかを見ても、割とこういうものを参考にしてつくったようなものが非常に多いのかなと思うんですけども、非常に芸術っていつもそんなのかもしれないけれども、前衛というか、そういうところもあって、自由奔放なといいますか、形にはまらないで、そういうところでいいんだと思うんですね。

それに比べて光村は、やっぱり古典的な、きれいなすごい芸術家の作品がたくさん並んではいるんですけども、美術全集的な感じで、教科書というよりも鑑賞、さっき皆さんが言った鑑賞、鑑賞も大事なことはありますけれども、子どもたちが何かつくるという、あるいはかくという意味では、開隆堂のほうが参考になるのかなと思います。

以上です。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

おっしゃるように美術というのは、創作することの喜びと鑑賞することの楽しさというものを味わって、美術を愛好する心を養うということが目標だというふうにされておりました、両方大事だと思うんですけども、だから同じようなものが、教科書にあるかという、大分この3冊は違っておりまして、今までご指摘がありましたように、編成方針が

大分違うなという感じがいたします。

開隆堂は、今までご指摘がございましたように、制作のほうに、表現のほうに力を入れているということで、1年生は基本的なもの、2、3年が発展的なものと、発達段階に応じて作品の配列がされている。しかも生徒のつくった作品が中心となってかいてある、つくってあるというところで、また最初のところで学習のねらいがそれぞれ書いてありまして、わかりやすいのではないかと、使いやすいのではないかと思います。

それから、光村図書ですけれども、鑑賞中心であります、その割にはやはり小さい判というのがどうも余り功を奏していないというんですか、鑑賞にもなかなか難しいものがあって、教科書としてはちょっと中途半端ではないかなと思います。

日本文教出版は、双方、創作の部分と、それから鑑賞の部分がバランスよく入っておりますが、開隆堂との大きな違いと言え、やはり少し鑑賞のところの大きい鑑賞の作品が幾つか出ているというようなところだと思います。こちらもそんなに悪くないとは思っておりますけれども、やはり美術というのは、何と云っても、先ほど言った、これからいろいろなものをつくっていかうというような、そういう意欲を育てていくという意味が非常に大きいと思いますので、生徒作品をかなり重視した開隆堂、現行のものでよろしいと思っております。

大島委員長

最後に私の意見ですが、もう皆さん出た意見と同じでございます。

光村のものは、やはり判が小さいところへ、名画とか有名な作品の紹介というのが大きいんですが、やっぱり絵が小さくなって、作品のサイズも小さくなってしまって、ちょっと鑑賞という意味でも中途半端かなということでございますので、生徒の教科書としては、適さないのではないかと。

やっぱり文教出版と開隆堂は、判は大きいですし、それからある程度鑑賞用というか、有名な作品の紹介ということと、生徒が創作するという、その手引きになるという2面のバランスはいいと思いますけれども、開隆堂のほうがやっぱり、身近な生徒の作品が多いですし、このつくるという立場からつくっているといいですか、各ページのタイトルなんかもいろいろ、「炎と熱でつくる」とか「心をつなぐ」とか、なかなかタイトルが印象的でいいですし、そういう各ページのテーマに沿って、つくっているところの写真も入れたりして、あくまで生徒がつくるということを眼目に置いて編集しているというような姿勢が見える、貫かれているというところで、生徒の教科書としては適しているだろうという

ふうに思いますので、開隆堂のものがよろしいのではないかと思います。

そのほかにご意見はよろしいでしょうか。

それでは、委員の皆さんの意見を伺うとともに、教科書採択基準からしますと開隆堂の教科書が最適であると思いますので、美術につきましては、開隆堂を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

異議ございませんので、美術は開隆堂の教科書を採択候補とすることにいたします。

では、続きまして、保健体育の協議をいたします。保健体育は三つ教科書が出ているということでございます。

では、高木委員からお願いいたします。

高木委員

保健体育ですが、全体の構成なんですけれども、大日本図書さんは体育の内容があって、後から保健的な内容。東京書籍と学研さんが、保健があって体育という形で、順番というのは特にはないと思うんですけれども、私のイメージですと、やはり教科書を使うのは保健のほうがメインだと思いますので、保健、その後体育のほうが並びとしてはスムーズとか、セオリーなのかなという気がします。

その順番である学研さんと東京書籍さんを比べると、両方とも内容としてはいいと思います。特に東京書籍のほうは薬物乱用とか、いろいろ細かく書いてあるんですが、読みやすいという点でいうと、どちらかという学研さんのほうが読みやすいのかなと。分量的にも、やや東京書籍さんのほうは字が多い。ちょっと内容的に理科的な感じが、内容がどうか、教科書の構成が。学研の保健体育のほうが、知識学習というよりも、いろいろなことをちょっと興味を持ってやりましょうという形なので、なかなか保健体育というのは、子どもたちがモチベーションをちょっと持ちにくい科目なのかなという印象を私は持っております。そうすると、現行の学研のほうが子どもたちがずっと入っていけるのかなという気がしますので、こちらがよろしいかと思います。

大島委員長

ありがとうございました。では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

私も学研のほうを、今使っていますが、学研のいいところは、最初のカラーで出てくる

ところ口絵のところ、最初、健康ってどんなことと、いろいろな場面でスポーツをやっているところが出てきますけれども、ここのところと、もっとすごいというのは、口絵の3、4ページの生命の誕生のところ、さっき理科のところの生命の受精みたいなのがありましたけれども、これのほうは物すごくリアルですごいということがあります。それから、次の5、6ページのところは環境と、環境の汚染ですね、それと自然災害等、こんなところも写真がたくさんありまして、それから次の7、8が喫煙、飲酒、薬物乱用、これもすごい写真ですよ。

ということで、口絵のところ現代の人間の健康に対する課題みたいなものでしょうか、非常にリアルに大きな写真で提起しているというのは、なかなかいいのかなと思います。考えさせることもたくさんありますけれども。

それからもう一つは、人間の子どもたちの性のところで、性機能とか、そういうところの写真とか記述、説明のところですが、学研は、8、9ページのところはかなりリアルに書いてあるんですね。これ、前回採用するときにもいろいろ議論したところなのですが、疑問に思いながら、このくらい今の子はいいいのかなということで多分採用を決めていると思うんですけども、ちょっと後でまた指導室のほうで、これ、何か意見があったら、先生方が使いにくいとか、これまでちょっと表現し過ぎだとかありましたら、ちょっとお聞かせください。

というのはほかの、大日本でいうと、43、44、45ですけども、こんなにリアルじゃないんですね。それから東書も、東書は最初のほうの6ページぐらいのところに出てきますけれども、そんなにリアルではないというのがあるんですけども、ということで、ただ、私たちが多分この前決めたときには、恐らく先生、かなり教えづらいところがあるかもしれないけれども、子どもたちはいろいろな場面でいろいろなものをもう見ていると。だから、そういう、週刊誌を含めていろいろなところでいろいろなものを見ているのならば、そう思うならば、こういうきちとしたことで選んだほうがいいだろうということで選んでいると思うんですけども、ということで今まで使ってみて、現場の感想等もちょっと気にはなりますが、4年前に採用していますので、これでまた継続していいのかなと思いますので、学研を推薦します。

大島委員長

では、その点、指導室長、いかがでしょうかね。

指導室長

その部分についての、特に学校の意見というのはございません。

飛鳥馬委員

そうですか。

大島委員長

それでは、山田委員、お願いいたします。

山田委員

保健体育、その名のとおりなんですけれども、構成の配列はどの教科書も大体、体育部門が3分の1、残りの3分の2が保健分野ということの配列になっていると思います。

高木委員が指摘されましたように、大日本図書は体育が先で、その後保健ということなので、どちらが扱いやすいかというのは、学校の現場だと思いますけれども、やっぱり保健体育ということで、保健のことからということいいんじゃないかなと思います。学校の現場に行きますと、この保健というのは、なかなか現場では体育に押されてしまっていて、この教科書をきちんと網羅されて教え込むのはなかなか難しいのかなと思います。

先ほど飛鳥馬先生からお話がありましたけれども、こういった図のことなんです。実は世の中にあふれている少年少女雑誌というのは、もっと過激なイラストがたくさん使われているようなところがありますので、そういうことから考えると、このぐらいの表現はある程度いたし方ないのかなと思います。

それから、東京書籍ですけれども、今問題になっています喫煙とか薬物乱用については、ロールプレイを使って子どもたちへの導入を図っているということで、一つのアイデアとしてはいいやり方なのかなというふうに思います。また、見開きが、開いて多分1時間ということ意識してつくっているんで、そういった意味では使いやすいのかもしれない。

ただ、学研なんですけれども、文字が大きいということと、今日的な子どもたちの中で、例えば生活習慣のことですとか、あと、小学校との連携でいきますと、エイズの教育のところなどは非常によく書かれているのかなと。やはり先進国の中で、エイズがふえている我が国にとっては、この辺はしっかり教え込んでもらいたいかなということでは、学研がよくできているかなと。

また、中野区では、全部の小中学校にAEDが配置されていますので、AEDを扱っているのもこの学研のみなんです。そういった意味では、学校の現場に即している内容が組み込まれていると。

最近、話題になりました脳死判定のことなども学研が取り上げていますので、そういっ

た意味では、学研の教科書を採用するというだけで問題はないんじゃないかなと思います。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

先ほどお話がありましたように、東京書籍、学研が保健が先で体育が後と、大日本図書は体育が先ということで、構成としてはやはり保健を中心的に考えていくべきではないかと思っておりますので、学研、東京書籍の中で選んでいく話だと思っております。

それで、内容ですけれども、学研のほうは絵とか写真が豊富で、東京都の調査でも今日的課題であります健康な生活と疾病予防などの扱いが最も多いというような調査結果が出ております。特に性教育については詳しく記述してあります。Q&A方式をとって、わかりやすい配慮もされており、また、ストレスについても詳しく書かれております。

それから、体育の方面でもスポーツを楽しむというような観点が非常に強く出されているということで、なかなかすぐれた教科書なのだろうと思っております。

東京書籍も基礎学習を重視して、また人工呼吸の説明なども丁寧でよろしいと思っておりますけれども、全体的に見て学研の教科書のほうがすぐれているのではないかと、これを採用すべきではないかと思っております。

大島委員長

では、私の意見ですけれども、大体皆さんから出た意見と同じです。やはり保健分野と体育分野の配列の点で、保健が先に来たほうが扱いやすいし、よろしいだろうと思っておりますので、その点で大日本図書は体育が先に来ているという点がちょっと不適切かなと思っております。それと大日本図書は図が少なく、ちょっと全体にかた苦しい印象があります。という点でも、ちょっとどうかなと思うわけです。

それで、学研と東書ですけれども、東書も見開きで1単元というようなつくりになっておりまして、使いやすいというような印象はあります。ただ、学研はやっぱり特徴として、いろいろ薬物のこととか、なかなか衝撃的な写真等もあって賛否両論あるかもしれませんが、今の時代、情報があふれている時代、このぐらいの正しい情報を生徒に提供するということは必要ではないかと思っておりますし、今のいろいろ環境汚染、自然災害等のことも巻頭のほうで取り上げているという点で、現代の中学生にとっては問題意識を持ってもらうという意味でも適切なのではないかと思っておりますし、全体に絵が多くて親しみやすいという点では学研のものは生徒に読んでもらいやすいだろうという意味で、いいのではないかと。

それからタイトルの文字がカラフルだったり、文字も大きいとかという、紙面構成の面でも学研のものがいいのではないかと。

あと、単元ごとに、終わりに「振り返ろう」というコラムがあって、自己評価ができるようになっていることとか、巻末に研究課題というものが設定されているという点も、学習の手助けになっていいのではないかというような点がありますので、学研のものがいいのではないかと思います。ほかにご意見はございますでしょうか。

それでは、委員の皆さんの意見を伺うとともに、教科書採択基準からすると学研教育みらいの教科書が最適であると思いますので、保健体育につきましては、学研教育みらいのものを採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、異議ございませんので、保健体育は学研教育みらいのものを採択候補とすることにいたします。

では、続きまして、技術・家庭ですけれども、技術・家庭は技術分野と家庭分野と分かれておりまして、それぞれに教科書を選ぶということになっています。また、教科書は、技術・家庭分野共通ですけれども、二つの会社から出ておりますので、二つのものから選ぶと、こういうことになります。

まず技術分野についてです。では、飛鳥馬委員からお願いいたします。

飛鳥馬委員

技術科は、結構教科書が厚いな、大変だなと思うんですね。技術の時間って非常に少ないものですから、実習でつくらなくてはいけないから、だから教科書はこれは物すごく厚いと思いますけれども、それはともかくとして、開隆堂と東京書籍が出ていますが、今使っている開隆堂が全体にバランスよくできているのかなと思います。例えば、ものづくりのところですね。ものをつくる、これはものづくり、技術科の一番大事にしているところの分野かなと思いますけれども、そこで昔から言われている木工みたいなものも出てきますけれども、あるいはさらにロボットみたいなものですね、も含めてものづくり。

それからあと、環境の問題ですね。環境もこれも大事なことで、特に88ページ、89ページぐらいのところですけども、これからの社会が循環型社会ということで、いろいろなものが再生できるといいますか、再利用できるというか、そういうものを目指さなきゃいけないということで、環境問題を扱っていること。

それからあと、コンピュータのところ、コンピュータは、これはなかなか難しいなと思うんですけども、図面をかいたりすることは子どもたちに可能かどうかちょっと難しいところがあると思うんですけども、せいぜいグラフをかくとか、プレゼンテーションのときに使うということはできるでしょうけれど、高木委員は専門ですが私は詳しくちょっとわからないんですけども、製図をかくなんていうのが、ちょっと子どもにうまくいくのかどうかわかりませんが。

ということで、一応、ものづくり、環境、情報ですね。栽培もありますけれども、バランスのとれて、ボリュームもあって、たくさん内容はあるんですけども、丁寧に読めば子どもたちにもわかりやすいということで、開隆堂を推薦します。

大島委員長

ありがとうございました。

では、山田委員、お願いいたします。

山田委員

開隆堂、東京書籍とも、写真やイラストが多い、それがために、先ほど飛鳥馬委員もおっしゃったように厚い教科書となってしまっているんですけども、導入のところ、開隆堂は見開きで、コンピュータで探究するたくみの技ということで、五重塔をコンピュータ解析しているんですね。一方で、東京書籍は、私たちの生活を支える技術ということで、どちらかというとな現代的なアレンジから入っているという、導入のところが大きく違っているなというイメージがあります。

ただ、子どもたちが考えやすい、使いやすいということになると、開隆堂のほうが使い勝手がいいのかなというイメージを持ちます。

ただ、コンピュータのところ、東京書籍には、いわゆる電子メール送信の留意点とかマナーを少し載せているページがありますし、情報化社会の取り扱いなどは、少し東京書籍のほうがいい点もあるように思いますが、ものづくりという観点で、子どもたちが物をつくっていくということの楽しみ、楽しさなどを考えますと、開隆堂書籍の現行のものでいいのではないかなと思います。

私からは以上です。

大島委員長

では、高木委員、お願いいたします。

高木委員

二つしかありませんので、どちらかというところだと思います。

私も、中学校のときに、こんなに厚い技術の教科書は覚えがないので、やっぱりいろいろ知識として技術を身につけることがふえたなという実感があります。

ただ、いろいろなところで、ほかの教科と重複してくると思うんですね。そうしますと、両方とも全体の構成は似たような形ですので、前半部分の、例えば材料の加工とか、私が経験したような技術のところは、両方とも非常に見やすくわかりやすいと思います。

例えば、後半部分のコンピュータのところですが、飛鳥馬委員からのご指名がありましたので比較しますと、若干、東京書籍のほうが細かい。中学生でやるときに、コンピュータのハードウェアの仕組みは、私は余りやらなくてもいいのかなと思います。今、どんどんブラックボックス化していますので、ですから基本的なところさえ押さえておけば。

例えば、東京書籍さんの場合は、正常に起動できないときの画面例とか、確かに細かく載っているんですけども、これ機種が違ふとあるいはOSのバージョンが違ふと、これ違いますので、既にもう年内にはウインドウズ7が出る予定でございます。そうすると、OSが違ふと全然違ふっちゃうので、私はコンピュータのところの部分の出し方という開隆堂さんのほうがいいのかな。特に媒体なんかも一応、余り見ませんけれども、フロッピーディスク、MO、CD-R、DVD、SDメモリーカード、いろいろなものを扱っていますので。こっちも載っているんですね。ただ、東京書籍さんのほうは既にフロッピーディスクはないですね、スマートメディアになっていますね。

ざっくりとしたところで、使い方のほうに重点を置いた開隆堂さんのほうが、技術としては向いているのかなと私は思います。

以上でございます。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

技術・家庭、両方ともそうだと思うんですけども、これ全部やって、すべて学校で覚えるというよりは、うちで、教科書でもあるけれども、うちに置いておいて、何か使えるようなものというような意味もあると思うんで、非常に詳しくなっちゃっていると思うんですね。

しかも、こういうものというのは、学校でただ短い時間でやって、やるだけじゃなくて、実際に自分のうちで、コンピュータなんかあるわけですから、そういうものでやっていく

というようなこともあるし、何かちょっと壊れたら直したり、そんなようなのも含めて、ものづくり、それからそういった技術ですね。そういうものについて習得していくということが大事なんだと思います。

そこで、教科書ですが、開隆堂につきましては、工具とか機械の写真とかイラストが多くわかりやすいというところがあると思います。特に木工のところについては詳しいのではないかと。それから、コンピュータにつきましても、開隆堂のほうは、見ていてわかりやすい書き方がされているのではないかと思います。

東京書籍が別に悪いというわけではなくて、章の初めに目標が明記されているとか、発問の場所があったり、調べ学習などというような感じの場所があったり、悪くはないと思いますけれども、全体的に見て、開隆堂の教科書でよろしいと思います。

大島委員長

では、私の意見ですけれども、大体皆さんの意見と同じです。

開隆堂と東京書籍を比べまして、今おっしゃられたようなことがあるんですが、初めのほうで、目次の次に学習の仕方についての、やり方のまとめみたいなのを、案内図、ガイダンスのページがあるんですが、開隆堂のほうでいうと16から17ページで、これからの学び方というようなことを書いてあるページで、見開きになっていまして、図入りでとてもわかりやすく書いてあると。

同じ役目のページが、東京書籍のほうでもやはり2ページであるんですが、文章が長くて図がなく、視覚的に見て開隆堂のほうが大変わかりやすいということですね。

あと、作物の栽培についてのところで、開隆堂のほうは122から123ページですけれども、種まきとか植えつけとかの時期についての表が、両方の教科書にあるんですけれども、開隆堂のほうで文字で書いてありまして、時期がいつだというのがはっきりわかる。比べて、東京書籍のほうは、絵でかいてあるんですけれども、時期がいつというのは非常にわかりにくいというようなところが、細かいところですが、そういったところですかね。

全体に開隆堂のほうで図なんかも多いし親しみやすい感じで、わかりやすくいいのではないかと。

あと東京書籍は、アトムとウランとお茶の水博士が先導役ということで出てくるんですが、別に悪くはないんですけれども、やっぱり漫画のキャラクターが出てくるというのが子どもっぽい印象で、私はちょっと、中学生の教科書としては抵抗があるというような感じがいたしました。

ということで、開隆堂のものがよろしいのではないかと思いました。

ほかにご意見ありますでしょうか。

高木委員

ちょっと1点質問したいんですが、東京書籍さんのほうのコンピュータのところ、結構、図形処理のソフトのことがぼつぼつと載ってくるんです。例えば、ドロー系とペイント系の違いとか、あと画像の処理とかいうのが入ってくるんですが、実際、中学校の現場で、ここら辺はやるんですか。

うちの短大でもコンピュータグラフィックスの授業はありますけれども、これ例えばドロー系、簡単な図形かくのに、下手すると2時間ぐらいとっちゃうので、現場では難しいんじゃないのかなと思うんですけれども、いかがでしょうか。

指導室長

おっしゃるとおりだと思います。学習指導要領の中に、そういうプログラムについてある程度入っている、例として入っていますので、使いこなせるようになるかというのは、またちょっと別です。こういうのがあるんだという紹介をしているところだというふうに思います。

大島委員長

よろしいでしょうか。では、委員の皆さんの意見を伺うとともに、教科書採択基準からしますと開隆堂の教科書が最適であると思いますので、技術分野につきましては、開隆堂の教科書を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、異議ございませんので、技術分野は開隆堂のものを採択候補とすることにいたします。

それでは、続きまして、技術・家庭の家庭分野についての教科書です。これも同じく二つの教科書がございます。では、山田委員からお願いいたします。

山田委員

昔でいう家庭科というところなんですけれども、先ほどと同じように、かなり厚い教科書の内容で、かなり驚いているわけなんですけれども、今の男女共同参画の時代ということで、このぐらいの厚みが出てくるのかなという気がしますが、やっぱり食に対する理解と、あと、家庭機能を深めていくというようなところが視点なんだろうと思います。

食については、特に最近のいわゆる食品表示表というのが、昨今問題になっていますけれども、開隆堂では、36から37について、食品の表示だとか、一時期問題になりました消費期限、賞味期限などをきちんと掲載されていて、そういった点では、私たちの実生活に合ったものを取り上げているのかなと。

一方で、東京書籍も食についての基礎基本についてはかなりしっかりと書き込んでいますので、多少の違いはあれ、どちらもよくできている教科書じゃないかなと思います。

あと、選択とか発展というのが目次に出てくるんですけれども、恐らくそんな中で、今、子どもたちが職場体験の中で保育園とか幼稚園に行くような場面があるかと思えますけれども、そういったところでこの教科書が使えるんだなというのが、初めて知ったといえますか、幼児の触れ合いというのはどちらの教科書にも載ってまして、かなり詳しい内容が出てきていますね。

例えば、東京書籍では「赤ちゃんってやわらかい」「幼児に合ったおもちゃとは」というような、そんな視点も出てきているので、そういったところで使える教科書という視点もあるかと思えます。

どちらも非常に厚いので、この単元で何を勉強するのかなというのが、これは恐らく学校の現場での教員の裁量なんだろうと思えますけれども、全体を通じて見て、現行の開隆堂出版のもので問題はないと思います。

以上です。

大島委員長

では、高木委員、お願いします。

高木委員

家庭分野に関しては、なかなかちょっと、私自身が余り疎いところなので、評価が難しいところなんですけど、逆に言うと、疎い男子生徒の気持ちからいうと、どっちが取っつきやすいかというと、開隆堂さんのほうが取っつきやすいのかなと。

例えば、調理の仕方についても、東京書籍が不親切ということではないんですが、より細かい手順が書いてあるのは開隆堂さんのところですかね。実際、魚の調理をするということで、1匹買ってきて、ぜいごを取って、えらを取るというのはなくて、東京だと切り身を買ってくるとかいう形なんですけど、実際に魚を触ったことがないという子どもも多いので、そういった点で、こういったわかりやすい表現が多い開隆堂さんのほうが、私はいいのかなと思います。

以上でございます。

大島委員長

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

家庭科は、山田委員がよく言っている幼児教育の、幼児との交流というのが、これが一番最初に出てきますけれども、写真等が出ていますが、あとは古典的な衣食住だと思っておりますけれども、衣食住が、これがほかの分野もふえているので相対的には減ってきている。

時数もちろん減っちゃっているわけですが、減ってきているところではあるかなと思いますが、衣のところかというと、世界の人々の衣服、服装と気候とかの関係とか、食ですと、食のマナーとか栄養バランスとか安全の問題とか、住のほうは、ほとんど余り今、昔と比べて住まいのことは、教科書もなかなか書きにくいんだと思うんですけれども、昔ほどきちっと書かれていないといえますか、マンション等が多くなっているので書きにくいのかもかもしれません。

それと、あと、新しい分野で注目するのは、やっぱり環境の問題ですね。教科書で、開隆堂でいうと、「古着のゆくえ」なんて、古着がどこへ行くのかみたいなこと、古着の旅みたいのが、これはおもしろいかなと思いますけれどもそういうこと。

それからあと、消費者のところですね、最後のほうですけれども、食材の生産から消費までとか、それから食品のいろいろな表示がありますけれども、食品の表示。

それと消費者教育と言えば、いろいろな消費者のトラブルですね。トラブルの問題、そういうようなのを扱っていますので、これは東書と比べてどっちがいいかというのは難しいところで、そんなに余り遜色ないと思うんですけれども、でも開隆堂を今まで使っていますので、開隆堂でいいかなと思います。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

これも技術と同じで、これを全部学校で教えてもらって、それで終わりというんじゃないくて、実際にうちに帰って、きちんとこういうことを自分でできるようになるということが目的だと思いますので、そういう面でいきますと、両方の教科書を見てもそんなに遜色はないし、内容的に網羅していると思いますし、こちらがこれだけだめだというようなことはないと思います。

ただ、家庭のところでも言いましたけれども、開隆堂のほうが見やすくできていると思います。実際に文字の大きさとか、ところどころゴシックになったり、そういったような工夫がされているというふうに思います。それから、調理の関係などでも、わかりやすいような記述がしてあると思います。

そういう、やや全体的な丁寧な記述あるいは見やすさという面で、開隆堂のほうが少しいいのかなと、そんなところでございます。

大島委員長

では、私の意見ですけれども、私も内容的に両方とも悪いということは全くないと思いますが、開隆堂のほうが、やはり全体に見やすいし興味を引くというような、視覚的に見て楽しいという点で、みんなに興味を持ってもらえるという面でいいのかなと思います。

特に目次に入る前の一番初めのところの部分ですけれども、日本の家庭の家財道具と、アフリカのマリ共和国の家財道具と、世界各国の1週間分の食料とかというような、この辺が大変視覚的に目を引くし興味をそそられるという、珍しい企画、写真だと思いますし、その後続けて、生活の場面での写真や、食材の生産、それから食事までとか、いろいろ食料の流通のこと、それから衣服のこと、住まいのこととか、写真でずっと紹介しているというのが、導入部として非常に興味を引いていいんじゃないかと。

それから、先ほどの技術分野も同じですけれども、目次の次の学習のねらいのところやはり見開きでイラスト入りでわかりやすく出ているというところもいいかなと思います。

それで一方、東京書籍のほうは、導入部のところで、日本各地の郷土料理の紹介はいいんですけども、一番初めのところでテストが出るんですね。各生活の場面で、自分がどの程度実践しているかというのを自己評価しようということなんですけれども、「幼児と一緒に遊んでいるか」とか「表示を見て買い物しているか」とか「衣類のほころびを直しているか」とかというのが、中学生で自分で買い物に行く子がいるだろうかとか、食材を家庭のお母さんがスーパーに行くみたいな感じで買い物をする子がいるだろうかとか、幼児は兄弟がいない子は遊ぶ機会がないんじゃないかと、いろいろその家庭での状況が違うというところを考えると、これで点数で何かするというのはちょっと不適切じゃないかなと思ったり、それからその次に、いきなり食品の変化を調べようというところで、リンゴが黄色く酸化していくところとか、肉が腐っていくところとか、これはこれでももちろん知識として非常に大事なことだと思うんですが、導入部で写真で紹介されるには、余りおもしろくないという気がいたしました。

あと、調理のほうですけれども、それぞれ調理も割と同じような料理が取り上げられているようで遜色ないんですけれども、開隆堂のほうは「肉を調理しよう」「魚を調理しよう」「野菜を調理しよう」というような、タイトルをつけて紹介しているというようなところで目を引く構成になっていると。東京書籍のほうは特にそういうような分類はしていないというような、見たところの親しみやすさとかいう点で開隆堂のほうがいいのではないかというふうに思いました。

というところで、ほかにご発言はありますでしょうか。どうぞ、山田委員。

山田委員

指導室にお尋ねしたいんですけれども、目次を見ますと、必須と選択というのが出てくるんですけれども、必須は恐らく指導要領に基づいたことだと思うんですが、発展というのは、多分、指導要領以外のことなんですけれども、選択というものの取り扱いはどのようにされているのかというところが1点と、それから食がこれからいろいろと話題になってきているんですけれども、いわゆる栄養職員というのが、教職員というのが今度配置されてくると思うんですけれども、そういった先生方の位置づけと、この家庭科の分野のかかわり、これをちょっと教えていただきたいんですが。

大島委員長

指導室長どうぞ。

指導室長

選択の件でございます。これは内容の選択ということで、学習指導要領に示されている中から、どちらかを選ぶということで、教科書についても、例えば開隆堂で申し上げますと、「豊かに楽しく食べる」とか「イメージを形にする」というので選択していくということになります。ですから、教科書に書いてあることをすべてやるのではなくて、必修は全部もちろんやるんですが、その中で、選択するものについてはその学校の実態、お子さんの実態に応じて選択をしてやっていくということになります。

2点目の栄養教員につきましては、東京都で実験的に今年度から数人ずつの配置になっておりますけれども、まだまだ入ってきていないのが状況でございます。免許を持っている者はだんだんふえております。今、実際に栄養士さんの中でも資格を取って、栄養教員の免許を持っていらっしゃる方もいるようでございますけれども、具体的に、それではその方がどういうふうに入っていくかというのは、まだまだ検討段階というのか、実際には栄養士さんのお仕事をしながら、今もやっていただいているような給食だとか、そういう

時間の栄養、食育に関する指導をしていただくということになると思います。

当然、家庭科ですとか、こういう中でも入っていただくと。保健体育もちろんそうですが、ということもあると思います。

大島委員長

ほかにはよろしいでしょうか。

今の質疑応答を踏まえて、山田委員、特に意見に変更はございませんでしょうか。

山田委員

特にはありません。

大島委員長

では、委員の皆さんの意見を伺うとともに、教科書採択基準からしますと開隆堂の教科書が最適であると思いますので、家庭分野につきましては、開隆堂の教科書を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、異議ございませんので、家庭分野は開隆堂のものを採択候補とすることにいたします。

それでは、最後になりますが、英語についてということでございます。英語はこれは6者から出ております。

では、高木委員からお願いいたします。

高木委員

英語はたくさん教科書が出ていて、なかなか判断が難しいところでございます。

私が中学生のころは「This is a pen」「That is a book」から始まっていて、ネイティブの教員から言わせると、最初にこれはペンですなんていうのは絶対あり得ないというのはよく言われることですが、もうちょっと日常的に普通に使うシチュエーションを。

各者ともいろいろ工夫をしているところなんですけど、三省堂さんのニュークラウンは、出だしのところ、最初のチャプターでは下に日本語がついているんですね。意外と、やっぱり小学校低学年ぐらいから英語をやっている子は結構、今クラスに1割とか2割いますので、それって習い始めると、そんなにアドバンスにはならないんですけども、結構最初にいきなり英語をやったときに、全然わからなくて、そこで苦手になっちゃう子というのはいるので、この英語の担当の先生からいうと、これはちょっと賛否両論あるかなと思

うんで、私としては最初の章だけでも、「Hello, Paul」で「おはよう、ポール」とついていると、少なくとも入り口のところで門前払いがないのかなという工夫は、私はこれは評価したいなと思っています。

あと、どこの教科書も外国語（英語）ということで、いろいろなところの外国語が載っているんですが、特に三省堂さんのニュークラウンは、最後に世界の言語の様子が入っているのが非常に興味を引くと。

あと、文法事項というのがやっぱり一番ネックになってくるところで、各出版社工夫をしているところなんですけど、見ると、私の印象だと、三省堂さんのニュークラウンが最後にまとめて文法のまとめということで、基本的な文法事項が割と2色刷りなんですかね、まとまっていて、例えばこれだけでも、高校、短大ぐらいの英語でちょっと苦手になっちゃった子どもに復習させるのにいいぐらいの非常にコンパクトでわかりやすい内容になっていますし、単語の意味に関してもこれでまとまっているので、チャプターごとに整理をしているところもあると思うんですが、多分英語の授業のスタイルでいうと、これのほかに先生はプリントとか補助教材を使っているケースが多いですね、学校の授業を見ますと。それを考えると、組み合わせということだと、巻末にまとめてつくっているスタイルのニュークラウンが一番いいんじゃないのかなと思うところがございます。

以上です。

大島委員長

では、飛鳥馬委員、お願いいたします。

飛鳥馬委員

英語も、小学校で英語活動をやって、そして中学校の英語学習ということで、1年生の最初のつながりのところを考えますと、なるべく小学校の英語活動からすんなり入れるような形がいいのかなと思うんですね。すんなり入れるという意味では、三省堂のこのたくさん大きい絵がかいてあって、最初の2ページですか、「英語であいさつをしてみよう」とか、それからの次のページの「英語を聞いてみよう、どれだけわかるかな」と、聞いてみようですね。言うんじゃないで、聞いてみようのほうですね。そして、英語の単語のつづりとか読みを覚えようと、こう入っていくのがかなり自然かなと思っているんですけども、ほかの教科書を見ると、例えば、開隆堂ですと、最初から「英語らしく言ってみよう」と、聞き分けたり、言ってみようになっちゃっているんですね。教科書の最初のスタートのところから。「アルファベットになれよう」とか、ちょっとここでギャップがある

のかなという気もしないでもないんですけれども。

東京書籍の場合は、これは最初は、教室で使われる英語というのはありますけれども、これも小学校ではどのぐらいやっているかわかりませんが、その次は、「身の回りの英語、英語と日本語の音の違いを聞き比べよう」、これはちょっと三省堂に似ていますけれども、次は、今度は「アルファベットを書いてみよう」になっちゃうので、ちょっと余裕を持って入れるのは、三省堂のほうがいいのかなという気がしないでもないんです。

あと、三省堂のほうは、教科書の中にとりどころにいろいろなマークが入っているんですね。耳のマークが書いてあって、よく聞くみたいな、聞くところですよ、ヒアリングのところ、口で話すところだよ、口が大きくあいているとか。鉛筆のマークがあるところは、書くという、そういういろいろなマークで、ここでやるべき、子どもたちが注意すべきことが示されているような気がするんですね。

それからあと、英語の題材のところも割とバラエティーに富んでいまして、1年生のところだと、沖縄の友だちのこととか、アメリカの中学校の子どもたちの生活のこととか、環境とか介護保険とかありますけれども、割とバラエティーに富んだ、子どもに身近になりそうな題材を選んでいるというのがあります。

あとはほかにもいろいろ特徴があって、似たりよつたりのところもあるのかもしれませんが、英語の歌が2曲かな、2カ所ぐらい入っていまして、これも歌が入っているのはいいなと思います。それとあと、子どもたちが便利だと思うのは、とりどころにまとめてワードコーナーというのがあって、それを例えば四季、春夏秋冬をどういうふうに言うかとか、あるいは数字の順、序数ですね、序数をどういうふうに英語で言うかとか、月を1月から12月までどう言うかとか、まとめてずっと曜日とか家族とか、こういうのが全部で六つぐらい、ページをちゃんと割り当ててまとめて載っているんですね。こういうのもまた子どもたちは使いやすいのかなというふうに思います。

ということで、導入の部分で入りやすいことと、いろいろなところどころに、子どもが気をつけて学ぶべき、聞く、話す、書くというので、そういう印があるというようなこととかを考えると、三省堂がいいかなと思います。

大島委員長

では、山田委員、お願いいたします。

山田委員

外国語、英語ですけれども、時間が平成24年度からは、現行105時間から140時間に上が

るということで、あと小学校での外国語活動との連結ということで、改めて各教科書を見直してみたいんですけども、やはり英語ですので、聞く、話す、それから読む、書く、四つの技能のバランスがとれている教科書。

一方では、日本人がなかなか英語が取っつきにくいということもあるので、中学校から新しく入る教科ですから、子どもたちにとって親しみやすいような題材を扱っているという。例えば学校の生活の内容ですとか、クラブ活動など、各者いろいろ工夫して導入をしているように見受けられます。

そんな中で、例えば、東京書籍は1年のところでは、日本大好きということで、日本の文化とか食べ物を紹介してしまったり、子どもたちが毎年暮らすであろうクリスマスのことについて、南半球のサンタクロースなどを取り上げていて、親しみやすい題材を取り上げているかなど。

また、2から3の単元ごとにまとめて練習というコーナーがあって、ここで文法をきちんと取り上げていますし、イラストや写真などがわかりやすいレイアウトになっているのが特徴ではないかなと思います。

開隆堂はこの教科書、特に聞く、話すという、音声のほうを随分重要視した内容になっているように思います。また、巻末に文法のまとめ、クイックQ&Aとか、英語の歌なんかは補充されている、そこが印象的でした。

学校図書、これは普通、英語の教科書で動詞を扱うときに、ここだけ「I like baseball」から始まっていて、be動詞じゃないんですね。それは賛否両論あるのかなと思いますけれども、リーディングの中でも映画の内容を取り上げるとか、子どもたちにとっては取っつきやすい、親しみやすい内容を取り上げているように思います。

教育出版は、今までの教科書の中では字がすごく大きくて、余白が多いという印象があって、視覚的には親しみやすいように思います。単元ごとに最初にテンゴールズという目標を掲げていて、また単元が終わりますと、文法の仕組みということでくくられていて、この単元ではこんなことが目標だよということが示されているというようにレイアウトされていることが特徴だと思います。

光村は賛否両論、いろいろあると思うんですけども、1年から3年までストーリーがある程度一貫していて、特に子どもたちにとってのクラブ活動だとかお祭りとか、バザーとか、親しみやすいものを取り上げていて、イラストが非常にすっきりしているイラストを使っているように思います。最近で、特に子どもたちの中で見ていると、電子辞書な

んかを使ってしまうことも多いので、1年生のところで英和とか和英の辞典を取り上げているのは特徴だというふうに思いました。

現行は三省堂なんですけれども、これは題材が非常に豊かかなというふうに思います。例えば1年のところで介助犬が出てきたり、自然環境のことがあったり、2年生では戦争のこと、インターネットのこともちょっと取り上げられていますし、3年では人権とか平和とかいうことで、1年から3年の発達段階に応じている。

また、目次の次にある言葉の仕組みとか働きというのが、この単元で何を学ぶかということが、新しい表現でまとめられていて、わかりやすくレイアウトされていて、先ほど高木委員がお話ししていたように付録が非常に充実してまして、イラストを含めて文法がまとめられているとか、単語の意味があったり、あと、幾つかの教科書も同じですけども、英文の手紙の書き方なども載ってまして、子どもたちにとっては、比較的学びやすい教科書ということで、三省堂は、6者いろいろ工夫を凝らしていますけれども、使いやすい教科書ではないかなと思います。

特に今年度は学習指導要領の指導内容が複数学年で一体となっているということでありまして、2年、3年については現在の発行のものを採択することも必要なので、現行の三省堂で問題ないんじゃないかなと思います。

私からは以上です。

大島委員長

では、教育長、お願いいたします。

教育長

英語は余り得意ではなかったんで、何でかなと思いましたが、やはり最初のところの導入のところが非常に新しいことなので、なれるのにちょっと時間がかかったということだと思います。

そういう面では、英語に最初から興味関心を持つように導入部分に工夫された教科書はいいと思います。

今の子どもたちは、ただ、英語、単語そのものには随分知識があると思いますけれども、読めるけれども話せないというような、そういうような部分は変わらないと思いますので、会話とか、そういったものが中心の教え方がいいんじゃないかなと。

この三省堂の教科書は、一番その中では最初の導入の部分が会話中心ということ、それから漫画形式というんですかね、吹き出しがついたような形で非常に親しみやすいような

形に入っていると思います。設定は、これを見る限り日本ですけれども、言葉は全部英語だということで、外国で暮らしているような、そんな大変英語の環境に親しみやすいような工夫がされていると思います。

それから、教材につきましても、2、3年と進むにつれて、世界中の国々が出てきたり、さまざまな考えさせられるような題材が、教材がたくさん出てきて、なかなかいい教科書だなと思います。

ほかの教科書、東京書籍につきましても、かなりそういう面では題材的にはすぐれたものもありますけれども、若干難しく感じましたし、開隆堂につきましても、少し最初のところの字がすごく小さくて、ごちゃごちゃと入っているような感じで、導入としてはいかがかというふうに感じました。

ほかの教科書についても、それぞれ利点ありますけれども、総合的に見て、三省堂のものがよろしいと思います。

大島委員長

では、私の意見ですが、各者とも悪いということではなくて、それぞれ工夫しているということはわかります。

ただ、比べてみますと、光村のものなどは初めから漫画の吹き出しみたいなものではなくて、ちゃんと長い文章で出ているというのが勉強重視的というか、まじめな構成となっている印象なんですけど、やっぱり今お話が出ているように、まず中学1年の導入部という意味では、三省堂とか、学校図書などは、イラストがあって、セリフの吹き出しみたいになっていて、そこに英語が出てくるという漫画のような書き方が、普通のほかの教科書の教科書ではそういうのは適切ではないかもしれませんが、英語に初めて接するという意味では、大変親しみやすくいいのではないかと。そういう意味で、三省堂のものは、それと日本語の訳が出ているので、初めのところですけども、というのも大変いいのではないかというふうに思います。

三省堂の長所につきましては、今各委員からいろいろお話が出たところも、私が思ったところと同じでございます。

初めの導入部はそういうちょっと漫画的なあれですけども、しかし、内容的にはいろいろバラエティーに富んだ題材を扱っておりまして、3年のものでは、キング牧師の演説の、キング牧師なんかも紹介されていたりして、なかなか国際人というか、全世界と交流を持つというようなものに向かった教育という、日本人の国際教育みたいな面からもうい

いのじゃないかなというふうに思いました。

光村なんかは、ターゲットセンテンスというようなものが本文になくて、単元の終わりにまとめているということなんですけれども、これがちょっと勉強しやすさという意味でどうかなと思っています。

三省堂のものは巻末に文法をまとめて解説してあったりして、これは文法は文法できちんと勉強するという意味でいいのではないかと思いました。

そんなことで、各者それぞれ、いいところもあるんですけれども、三省堂のものが、現行使っているということもありますし、親しみやすさとか、いろいろな面でいいのではないかというふうに思いました。

ほかにご意見は。どうぞ、山田委員。

山田委員

指導室にお尋ねしたいんですけれども、英語ですと、やっぱり聞くということでリスニング、ヒアリングだと思うんですけれども、おのあの教科書、これCDがみんなついてるんですよ。このCDの使い勝手とかいうところでの教科書での峻別とか何か、そういったところは何かあるんでしょうか。

指導室長

CDにつきましては、すべての教師用指導書についているものでございまして、教科書についているということではございません。

山田委員

でも、それは教科書採択されますと、そのCDが教員にはついてきてということになるわけですね。

指導室長

予算措置してございますので、中学校で英語の指導書を購入するということで、そこにCDが必ずついていくということになります。

山田委員

現行のそのCDについての評価はいかがでしょうか。

指導室長

特にそのことについて、使いづらいついとか、そういうお話は聞いておりません。

大島委員長

ほかにはよろしいでしょうか。

山田委員、今の質疑を受けて、ご意見の変更というのはございますでしょうか。

山田委員

特にありません。

大島委員長

それでは、各委員の皆さんの意見を伺うとともに教科書採択基準からしますと三省堂の教科書が最適であると思いますので、英語につきましては、三省堂を採択候補とすることで異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

異議ございませんので、英語は三省堂の教科書を採択候補とすることにいたします。

では、次に、特別支援学級で使用する教科書等について協議を進めます。指導室長から説明を受けたいと思いますので、お願いいたします。

指導室長

それでは、この後、特別支援学級で使用いたします教科用図書の採択についてご協議をいただきますが、今お配りしている資料と、事前にお配りしております資料をご参考にいただければと思います。

まず、例年どおりでございますけれども、特別支援学級のお子さんが使用する教科書につきましては、学校教育法附則第9条及び学校教育法施行規則第139条に基づきまして、学校教育法34条に示されております文部科学大臣の検定を経た教科書、または文部科学省が著作の名義を有する教科書以外のものを使うことができるというふうになってございます。今、前のほうのテーブルにお示ししてございますけれども、いわゆる一般の図書を教科用図書として使うことができるということでございます。

また、本区の、中野区立学校教科用図書の採択に関する規則で、特別支援学級につきましては、当該特別支援学級を設置している区立学校長の意見を聞くものとするという規定がございます。それに基づきまして、お配りしてあります、とじてあるものが、各学校から希望として上がっているものでございます。

また、この教科書につきましては、かなりの数でございますので一つ一つについて研究するということできません。そこで、冊子として今お渡しをしてございますけれども、東京都教育委員会、都道府県単位で特別支援学級で使用する教科用図書については調査研究をするということになっております。この冊子でございますが、平成21年、22年度使用

特別支援教育教科書調査研究資料というものでございまして、この中に示されている本を推薦して上げてくるというのが、この決まりでございます。

それでは、お配りしております資料を1枚めくっていただきますと、桃園小学校のものが出てまいります。以下、小学校のものが6校分、中学校のものが4校、4学級分出てまいります。掲載されてございますけれども、1ページをごらんいただきたいと思っております。

国語につきましては、第1学年については、検定の教科書、『新編 あたらしいこくご』、今小学校が使っている教科書を使うということで上がっております。

2年生から6年生については、そこがございます『ゆっくり学ぶ子のための「こくご」入門編』というのから1、2、それから国語1、2、3ということで使うということで上がっております。

書写については、そこがございますように、検定を受けた現在使っているものを使うということで上がっているところでございます。

以下、このように各学校から校長のほうから調査や希望が上がっております。23ページまでが小学校6校分、6学級分の教科書の候補でございますが、25ページを見ていただきますと、ここから後が中学校4校4学級分のものでございますが、国語、第二中学校の国語、1年生のところがございますが、国語で☆のマークがついております。いわゆる星本というものでございまして、これが文部科学省の著作の教科書ということになっております。残念ながら、これ見本本がございませんので、今お示しすることはできませんけれども、このようなものが、例えば数学の1年生でも☆の四つ、数学四つになっておりますけれども、星本を使うということになっております。

また、社会科を見ていただきます、社会科の1年生が空欄になっておりまして、検定教科書というふうに書いてございますけれども、来年度で使用する中学校の教科書を使うということでございますので、採択が終わった後、ここに名前が入るということになってございます。同じように数学の3年生の部分もあいております。

あと、めくっていただきまして、26ページになりますけれども、1年生の音楽は星本を使う、それから3年生については検定の教科書を使うということで、以下、各学校から上がっているところでございます。

以上、簡単でございますけれども、来年度使う特別支援学級のお子さんの教科書についてのご説明でございました。よろしくお願いいたします。

大島委員長

では、ただいまの説明につきまして、質問等ございますでしょうか。

ちょっと、私、もう一遍確認なんですけれども、ここで上がってきております希望図書というのは、文部科学省の検定を受けたものと、あと何か、定められた範囲の中から選んでいるんですか。

指導室長

まず、検定を受けた教科書、または文部科学大臣が著作権を有する教科書ということがありますが、それ以外にここがございます、調査研究資料に載っております中に出ている、いわゆる一般図書でございますけれども、これを使うことができるということでございます。障害の状況に応じて、お子さんの実態に応じて、教科書、いわゆる検定の教科書が使いにくい場合には、ここがございます、また前にお示ししているようなものを教科書として扱うことができるということでございます。

大島委員長

ということは、いずれも、きょうのこの希望された図書というのは、調査研究資料の中で、この学校教育法附則第9条の規定による教科書というふうに認められたものが、この調査資料に載っていると思うんですが、その中から希望図書に上げられていると。

指導室長

そのとおりでございます。

大島委員長

そういうことですね。

そのほかにご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

山田委員。

山田委員

1点確認したいんですけれども、性教育の分野の中で、実は都立の養護学校の中での性教育が取りざたされたことがあるかと思うんですけれども、そういった中で現在の中野区立の小学校、中学校で使われている保健体育のいわゆる9条本について、何かそういった行き過ぎたようなことの配慮はされているのかどうか、その辺をお聞きしたいと思います。

指導室長

各学校から上がってきております、ここの、例えば保健体育というところがそれに当たるところだというふうに思いますけれども、ここに出しておりますものについては、すべて東京都教育委員会の調査研究を経ているというものでございますので、特に問題ないとい

うふうに思っております。

山田委員

ありがとうございました。

大島委員長

ほかにご質問ございますでしょうか。

教育長

この一般図書ですか、一般図書としての扱いですけれども、東京都の調査してあるもの以外のものを使うということは可能なんですか。

指導室長

それはできません。ここにあるものから選ぶということになっております。

ただ、実は、ここに載っているんですけれども、絶版になるとか、そういうような状況が時々見られまして、その場合はまた新たにご報告をし直すということがございます。

大島委員長

ほかにはございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、特別支援学級で使用する教科書等につきましては、お手元の資料にございます教科書を採択候補とすることで異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

異議ございませんので、ただいま説明のあった教科書を採択候補といたします。

それでは、これですべての種目につきまして協議が終わりましたが、採択候補の教科書について、協議した教科科目の順に確認をしたいと思います。

指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、本日までのご協議の中で、採択候補に挙がりました教科書について、その種目の順番にご説明いたします。

まず国語、教育出版株式会社。

書写、教育出版株式会社。

地理、教育出版株式会社。

地図、株式会社帝国書院。

歴史、東京書籍株式会社。

公民、教育出版株式会社。

数学、大日本図書株式会社。

理科第1分野、大日本図書株式会社。

理科第2分野、大日本図書株式会社。

音楽・一般、株式会社教育芸術社。

音楽・器楽合奏、株式会社教育芸術社。

美術、開隆堂出版株式会社。

保健体育、株式会社学研教育みらい。

技術・家庭（技術分野）、開隆堂出版株式会社。

技術・家庭（家庭分野）、開隆堂出版株式会社。

外国語、株式会社三省堂。

以上でございます。

大島委員長

ただいま指導室長から説明のありました教科書を採択候補としたいと思いますが、ここで全体を振り返って、再度、教科種目ごとにご意見などがございましたら、お願いいたします。

どうぞ、山田委員。

山田委員

全体を通じてですけれども、これから学習指導要領が変わりまして、授業時間数がふえるということになりますと、今でさえ、教科書は写真、図、非常にきれいなんですけれども、厚くなってしまっている。そういった中で、子どもたちの意見からは、なるべく薄いものという意見も強く出ているわけですね。

ですから、今後、教科書会社には、大切なのは大切だと思うんですけれども、必要なものをきちんと載せていただきながら、例えば上下巻にするとかというような工夫をさせていただいて、子どもたちのニーズに合った教科書が世に出ることを望みたいと思います。

大島委員長

では、以上の意見も踏まえて、お願いいたします。

では、ただいま確認した内容に基づきまして、来週8月7日、午前10時に開会予定の第27回定例会で議案として改めて審議したいと思います。いかがでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

大島委員長

それでは、8月7日の第27回定例会で改めて審議することといたします。

次に採択結果の公表の時期、方法等について、確認したいと思います。それでは、指導室長、説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、長時間、慎重なご審議をいただきまして、本当にありがとうございました。今後の日程につきまして、ご確認をさせていただきます。

本日、今お話しさせていただきましたように、採択候補の教科書種目が決まりましたので、来週8月7日の定例会におきまして採択する教科書の決議をいただくこととなります。その後、議決をいただいたものにつきまして、東京都教育委員会には8月31日までに報告するということになってございます。

また、この採択結果につきましては、教育だより、それからホームページ等で区民への周知を図ってまいりたいと思います。

また、この教科書採択にかかわる会議録等につきましては、公開の議決を次回いただいた後、会議録ができ上がり次第、公開するという予定になってございます。おおむね9月中旬ごろからの公開ということになるかと思えます。

以上でございます。

大島委員長

ただいまの説明に質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

質問がないようですので、それでは、採択結果の公表の日程は、ただいま説明をいただいたとおりでご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

では、そのようにさせていただきます。

その他、何かありますでしょうか。では、教育経営担当。

参事(教育経営担当)

教科書採択にかかわる陳情の取り扱いにつきまして、ご説明をさせていただきます。

7月24日の第25回定例会の中でご報告をさせていただきましたけれども、教科書採択にかかわる陳情が2件提出をされてございます。その取り扱いについて、口頭でご報告をさせていただきます。

本日の臨時会ですべての教科種目にわたる教科書協議が終了いたしまして、採択候補の教科書について、協議が調ったところでございます。先ほど委員長からご発言がございましたので、8月7日に開催されます定例会において、平成22年度から使用する中学校の教科書につきまして採択がなされることと思います。

そこで、提出されております教科書採択に係る2件の陳情の取り扱いでございますが、定例会で議決されました結果を陳情の提出者に通知することにさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

大島委員長

では、教科書採択にかかわる陳情の取り扱いについては、そのようにお願いいたします。

以上で、本日予定した議事は終了いたしました。これをもちまして、教育委員会第3回臨時会を閉じます。ご苦労さまでした。

午後3時04分閉会